

## 令和4年度 布佐中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

4月19日（火）に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査（国語・数学・理科・アンケート）の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

### ○令和4年度の調査結果の分析

#### I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

##### 【国語】

多くの生徒は、基本的な学力が身につけている。特に、書くこと、読むこと分野では例年以上の結果だった。これは小学校からの積み重ねが大きい。短答式の正答率が低かった。特に言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られた。

##### 【数学】

連立方程式や等式変形などの問題はできている。一方で図形の知識はあるものの、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を正しく答えることができていなかった。問題演習の際、なぜそうなるのかを考えさせたり、生徒同士で意見を交換させるなどの取組が必要である。また、授業で学習してから時間が経過している内容の正答率が低い。家庭学習の取り組みに課題がみられる。

##### 【理科】

知識・技能は千葉県および全国と並ぶ数値であることから、十分な知識は備わっているとわかる。

しかし、思考・判断・表現が低いことから、実験結果を考察することや自分の考えを科学的にまとめて表現する力がまだ十分に備わっていない。また、エネルギーに関連する問題の正答率や、身の周りの現象を科学的に説明する問題の正答率が低かった。知識は身に付いているため、今後はそれを活用する力が必要である。

## 【アンケート】

家庭学習に取り組む時間が「2時間以上3時間より少ない」と「30分より少ない」と答えた生徒が同じ割合であった。「まったく勉強しない」と答えた割合は、全校国平均の約1.5倍であった。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、9割の生徒が肯定的な回答をしている。「学校の授業以外に、読書をしますか。」という質問に対し、「全くしない」と答えた生徒の割合は、全国平均の1.6倍であった。

## II. 改善目標

- ・「知識・技能」の習得に向けた主体的な学習習慣を身に付けさせる。
- ・「思考力：判断力・表現力」の向上に向けた「活動と協同のある授業」が推進できる効果的なICT活用方法を探す。

## III. 改善方策

- ・生徒の意欲を喚起し、「学び合い」が成立する学習課題のあり方について校内研修や相互授業参観などを通して学び、実践に生かす。

- ・朝学習である Basic を全校体制で行い。生徒の「思考力・判断力・表現力」を伸ばす取り組みを充実させるとともに、「知識・技能」の定着に向けた活動を補充する。
- ・「学力向上」に向けた小中一貫教育を推進しながら、発達段階に応じた系統的指導（授業・家庭学習・言語活動・学習規律等）を進めていく。小小間や小中間、中学校でも学年間の共通理解を図り、それぞれの取組に差異が出ないように、同じベクトルを向いた指導を徹底する。
- ・ICT の効果的な活用のための校内研修を進める。

#### IV. 検証方法

- ・全国学力・学習状況調査結果の分析
- ・授業の振り返りで主体的な学習ができているかの確認
- ・定期テストや小テストでの確認
- ・保護者アンケート
- ・学校運営協議会会議
- ・職員による自己評価アンケート